

文部科学省と国立大学附置研究所・センター 個別定例ランチミーティング

第130回 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 (2025.10.17)

- | | |
|--------------------|---|
| 12:05 – 12:10(5分) | : アジア・アフリカ言語文化研究所の概要
近藤 信彰 所長 |
| 12:10 – 12:25(15分) | : イスラーム研究の最前線を目指して
後藤 絵美 准教授 |
| 12:25 – 12:45(20分) | : 質疑応答 |



東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所



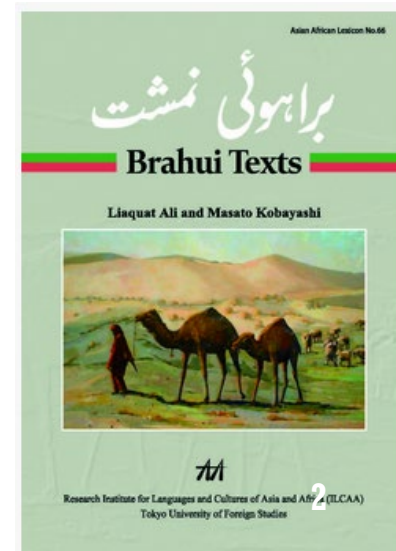
アジア・アフリカ言語文化研究所（A A 研）の概要

- 1964年創立 わが国最初の人文科学・社会科学系共同利用研究所
- 2010年より 共同利用・共同研究拠点「アジア・アフリカの言語文化に関する国際的究拠点」

言語学・人類学・歴史学・地域研究の各分野

- ミッション

- ①臨地研究（フィールドサイエンス）に基づく共同研究の遂行
- ②研究資源の収集・分析・編纂および研究成果の発信
- ③共同研究や研修・セミナー等を通じた次世代研究者の養成



概要（続）

- 規模 所員 34名 (内,女性10, 外国出身2) 特任助教 1 特任研究員4
研究機関研究員 3

- 組織 情報資源利用研究センター (IRC)
TUFSフィールドサイエンスコモンズ (TUFiSCo)

- 学内における位置づけ
研究を中心とした唯一の部局
研究関係の指標への貢献
大学院（博士前期・後期課程）の兼担
ポスドクの受入 J-Peaksへの貢献



所内での共同研究



- 全所プロジェクト

「トランスカルチャー状況下における分極と共生の解明：アジア・アフリカの人々とともにつくる人文知の「共有」と「対話」のプラットフォーム構築」

- 基幹研究

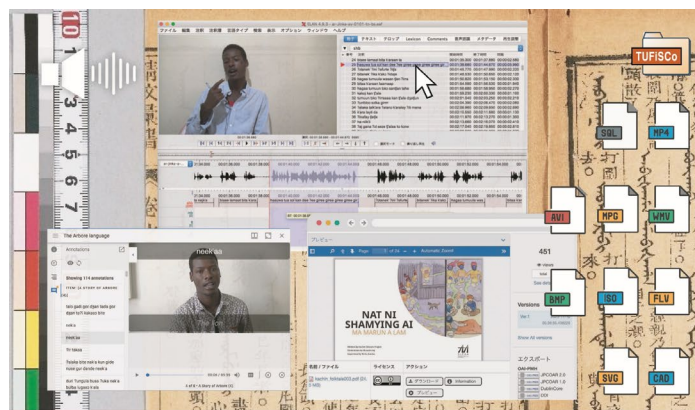
「アジア・アフリカの言語動態の記述と記録：アジア・アフリカに生きる人々の言語・文化への深い理解を目指して」（言語学系）

「社会性の人類学的探究：トランスカルチャー状況と寛容/不寛容の機序」（人類学系）

「「記憶」のフィールド・アーカイビング：イスラームがつなぐ共生社会の動態の解明」（地域研究系）

TUFS FIELD SCIENCE COMMONS (2022~)

フィールドアーカイビング・社会との共創



機関リポジトリ活用の可能性
Leveraging the Potential of Institutional Repositories
フィールド研究データの蓄積・活用

【日時】2024年 **12月23日** (月) 13:00-16:40
【場所】東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所304号室(マルチメディア会議室)
※オンライン参加も可能です ※要申し込み こちらから申し込みをお願いします (12/18(水) 締切)

研究データの公開・共有が求められる中、フィールド研究者もデータを蓄積し広く提供する方法を探っています。このシンポジウムでは機関リポジトリを用いてデータをオープン化し活用する方法を研究者と大学図書館職員が話します。

- フィールド研究データのオープン化とその活用
高橋菜奈子 (新潟大学)
- 人文学データとデジタルライブラリー
宇陀則彦 (筑波大学)
- フィールド言語学データの利活用
東京外国語大学機関リポジトリから
倉部慶太 (東京外国語大学) / 塩原朝子 (東京外国語大学)
- 採れたてのフィールドエッセー
大阪大学での機関リポジトリと「オープン・エスノグラフィ」の連携を事例として
神崎隼人 (大阪大学)

フィールドの姿や声を
リポジトリから
みんなに届ける

【共催】TUFSフィールドサイエンスコンモンズ / 東京外国語大学附属図書館
【問い合わせ】TUFSフィールドサイエンスコンモンズ tufsc-office@tufs.ac.jp
※このイベントは文部科学省オープンアクセス加速化事業の一端として開催します



「バリ島のケチャを体験しよう！」2023/12/1

所属大学外との共同研究状況

- 共同利用・共同研究課題 2025年度は35件を実施
関連研究者数は全体で延べ390名
- 科研費による研究
 - 学術変革領域研究(A) イスラーム信頼学 2020～24年度
 - 学術変革領域研究(A) 顔身体デザイン 2025～29年度
 - 基盤研究(A) アジア・アフリカのフィールド資料の研究資源化 2025～28年度
- その他外部資金
 - 人間文化研究機構グローバル地中海地域研究
 - 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所拠点 2022～27年度
 - JSPS学術知共創プログラム
 - 身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現 2023～28年度



学術変革領域研究(A)

「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築： 世界の分断をのりこえる戦略知の創造」

- 略称：イスラーム信頼学
- イスラーム文明の持つ水平方向にネットワークを形成する過程の「つながりづくり」をコネクティビティの概念でとらえ、その暗黙知を言語化・可視化して、今日の世界において深刻化する不信と分極化・分断化の諸問題を解決するための視座を提供し、新たな提言を行うことを目指す。
- 2026年度地域研究コンソーシアム研究企画賞を受賞



海外研究拠点を通じた国際共同研究

- 中東研究日本センター (JacMES)

レバノン・ベイルート

- 共同利用・共同研究課題

「多民族・多宗派地域における移民・難民のコネクティビティ」

- コタキナバル・リエゾンオフィス (KKLO) マレーシア

- 共同利用・共同研究課題

「東南アジアにおけるイスラーム主義と社会・文化要因の相互作用に関する学際的研究ーミクロとマクロの視点から」



異分野融合研究の現状

- 2024年度より 学際領域研究担当を設置

シンポジウム「食が彩る人間の暮らし：考古学・歴史学と醸造学からワインを語る」

2024年10月25日開催

- 2025年度より 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-Peaks)

「世界へ展開する食とエネルギーのサステイナブルイノベーション」への参加
主に東京農工大学との共同研究

「食の変容と健康：東南アジア地方村落から」

「乳由来うま味成分の文理融合研究：環ヒマラヤ地域を事例として」

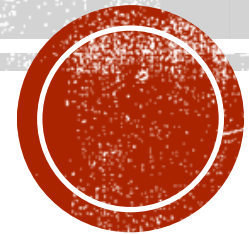
「牧畜と水利の近現代とその持続性：

モンゴル・中央アジアの比較による考察」



イスラーム研究の最前線を目指して

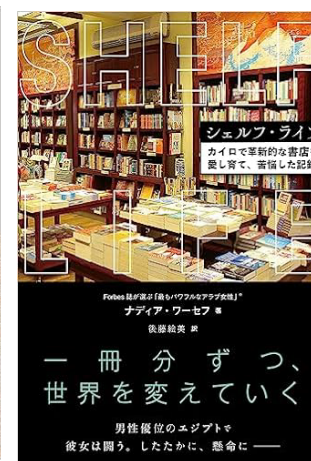
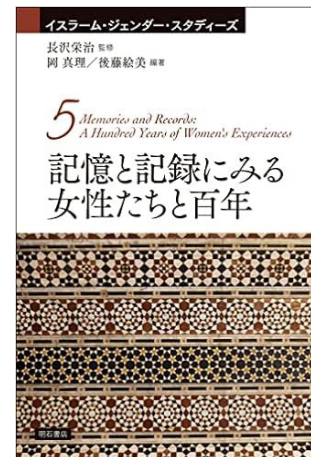
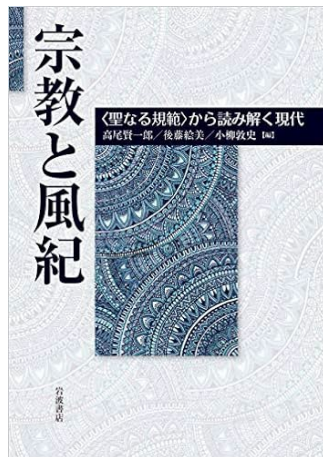
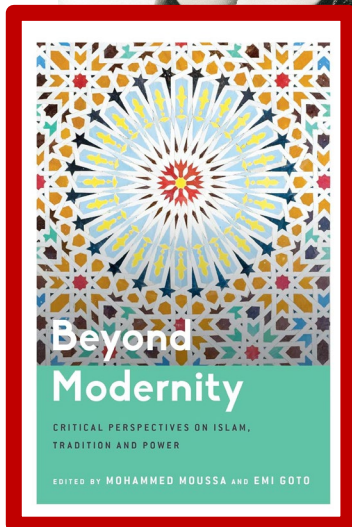
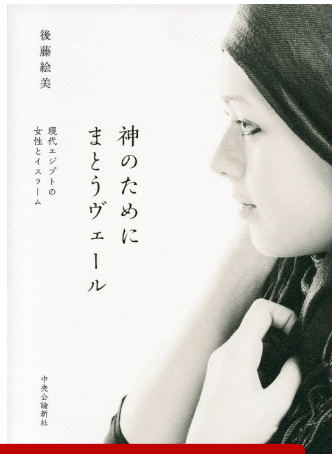
Beyond Modernity 刊行までの道のりとその意義

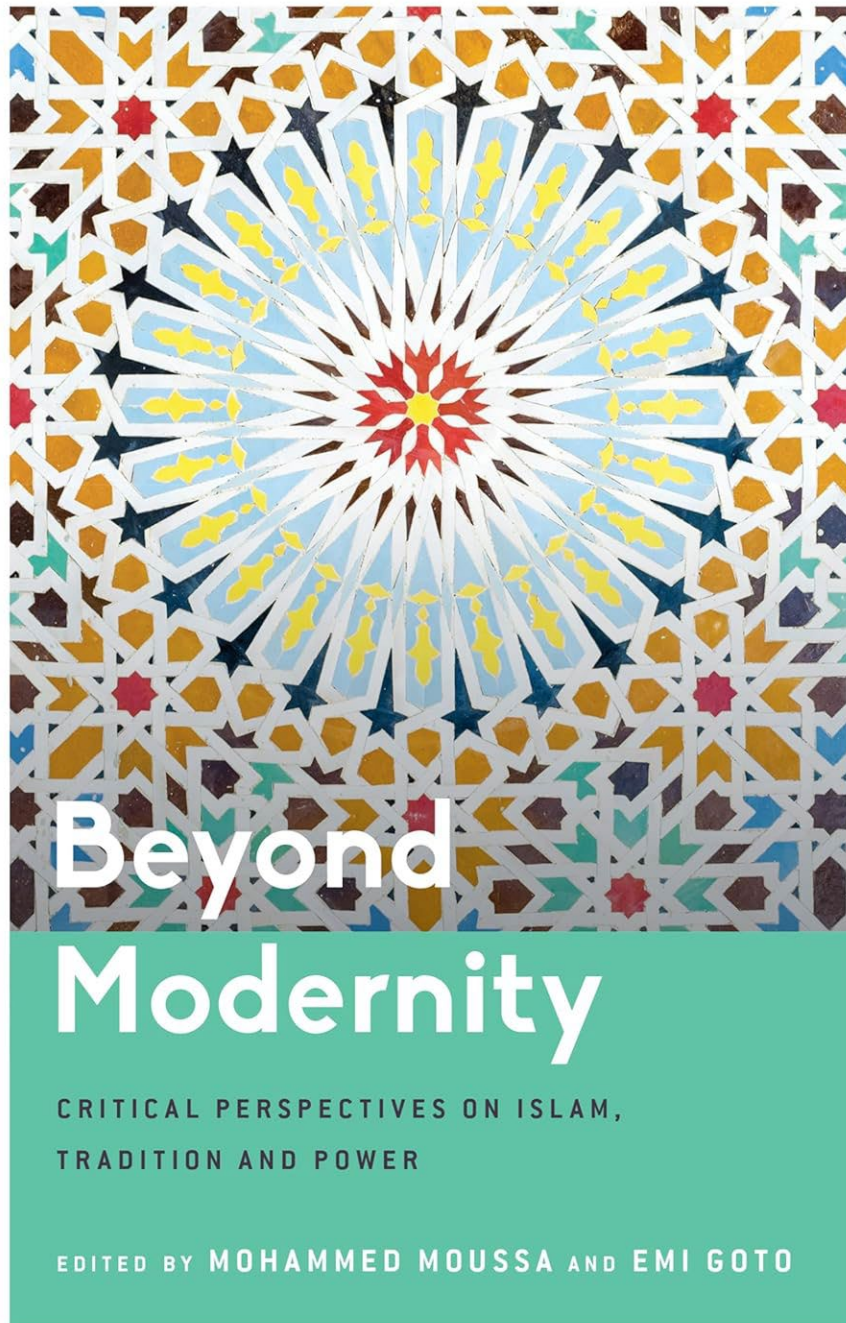


東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
後藤絵美

研究テーマ

「現代イスラーム研究」「ジェンダー研究」





2015年 9月 JSPS外国人特別研究員として来日中のMoussa氏と知り合う

2016年 3月 ブック・プロポーザル (ver. 1)

2017年 7月 科研費 (新学術領域) でMoussa氏とLarbi Sadiki氏を招聘

2018年 9月 ブック・プロポーザル (ver. 2)

2018年10月 科研費 (若手研究) でMoussa氏を招聘

2019年 7月 ブック・プロポーザル (ver. 3)

Beyond Modernity: Critical Perspectives on Islam,
Tradition and Power

執筆者への声かけ、出版社の内諾、締切の設定と延長
最大の問題は自分の章がまとまらないこと

Nasr Hamid Abou Zaydという人物を扱う

2022年 4月 自伝を読み返す中で、ある書籍の存在に気づく

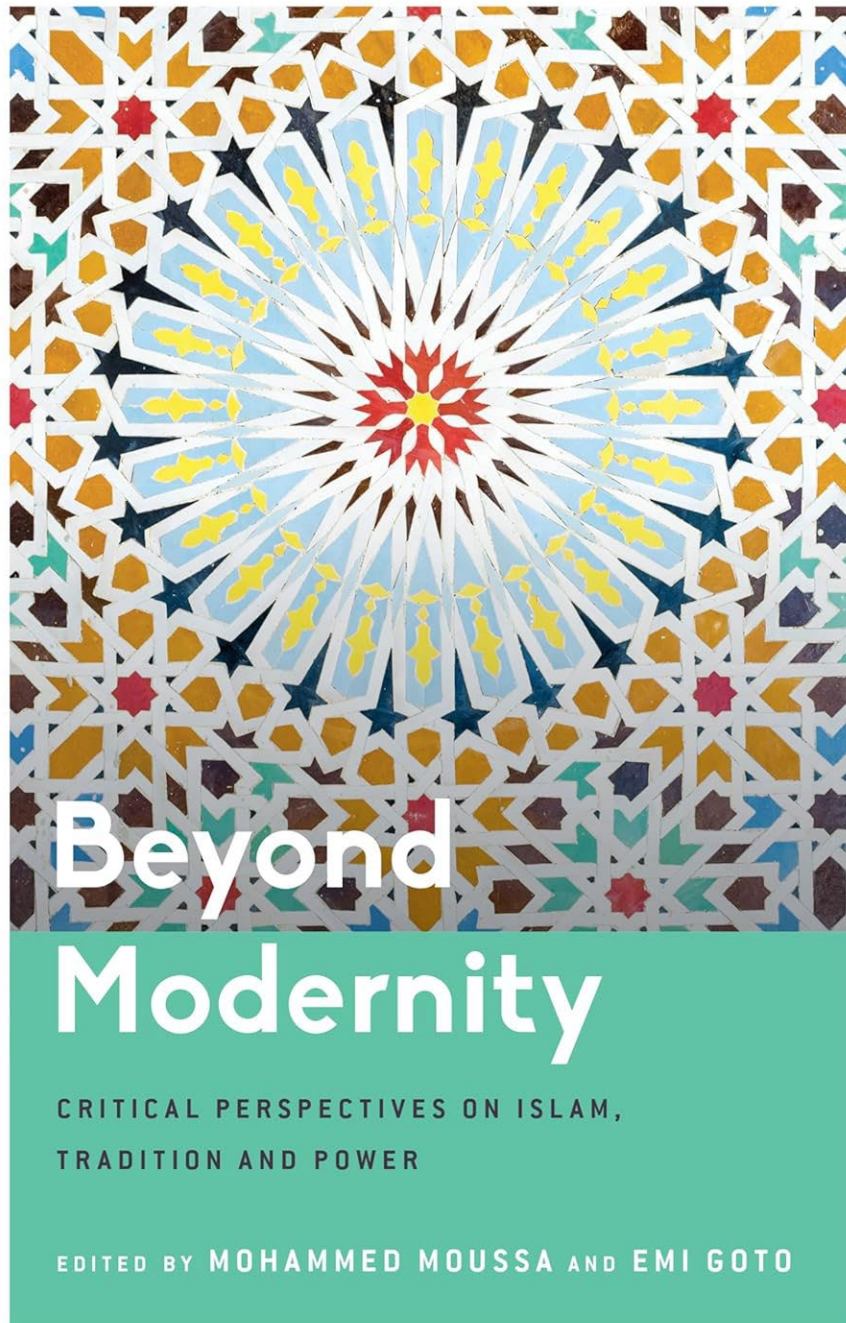
科研費 (若手研究) で国会図書館関西館へ

2022年 6月 出版社に必要な書類を提出

2022年12月 すべてのチャプターが出揃う

レビュー、書き直し、校正、参考文献一覧と索引づくり

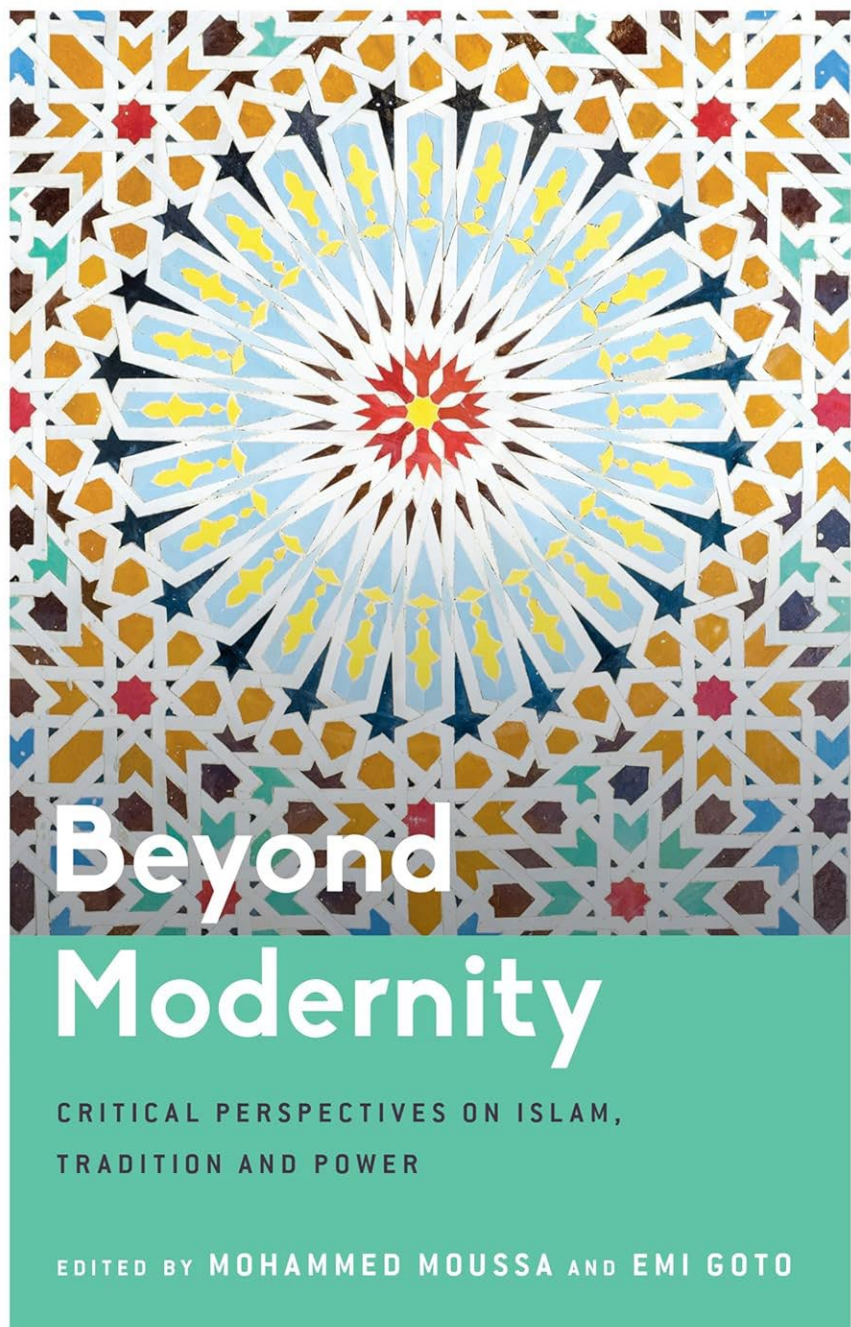
2023年11月 刊行



Preface

Introduction: Beyond Modernity? Interpreting Muslim Thought and Practice (Mohammed Moussa)

- 1: Problematizing the Compatibility of Islam and Democracy through a Hermeneutical Approach (Ahmet Kemal Bayram)
- 2: The Urgency of Changing the Arab World: The Case of Adonis, Mohammed Abed Al-Jabry, and Mohammed Arkoun (Atef Alshaer)
- 3: Reconstruction of the Maqāṣid al-Sharīʿa in Ibn ʿĀshūr's Legal Philosophy (Hitomi Ono)
- 4: The Ḥijāb between Competing Masculinities in Contemporary Turkey (Ravza Altuntaş-Çakır)
- 5: The Wahhabi Ascendancy and the Decline of the Ashrāf in Saudi Arabia (Kenichiro Takao)
- 6: Jawdat Said's Path Towards Nonviolence (Mohammed Moussa)
- 7: A Turn to Hermeneutics: Nasr Hamid Abu Zayd's Rethinking of Religion and Tradition in Japan (Emi Goto)
- 8: Religious Authority and the Making of al-Sistani's Charismatic Leadership in Post-2003 Iraq (Fouad J Kadhem)

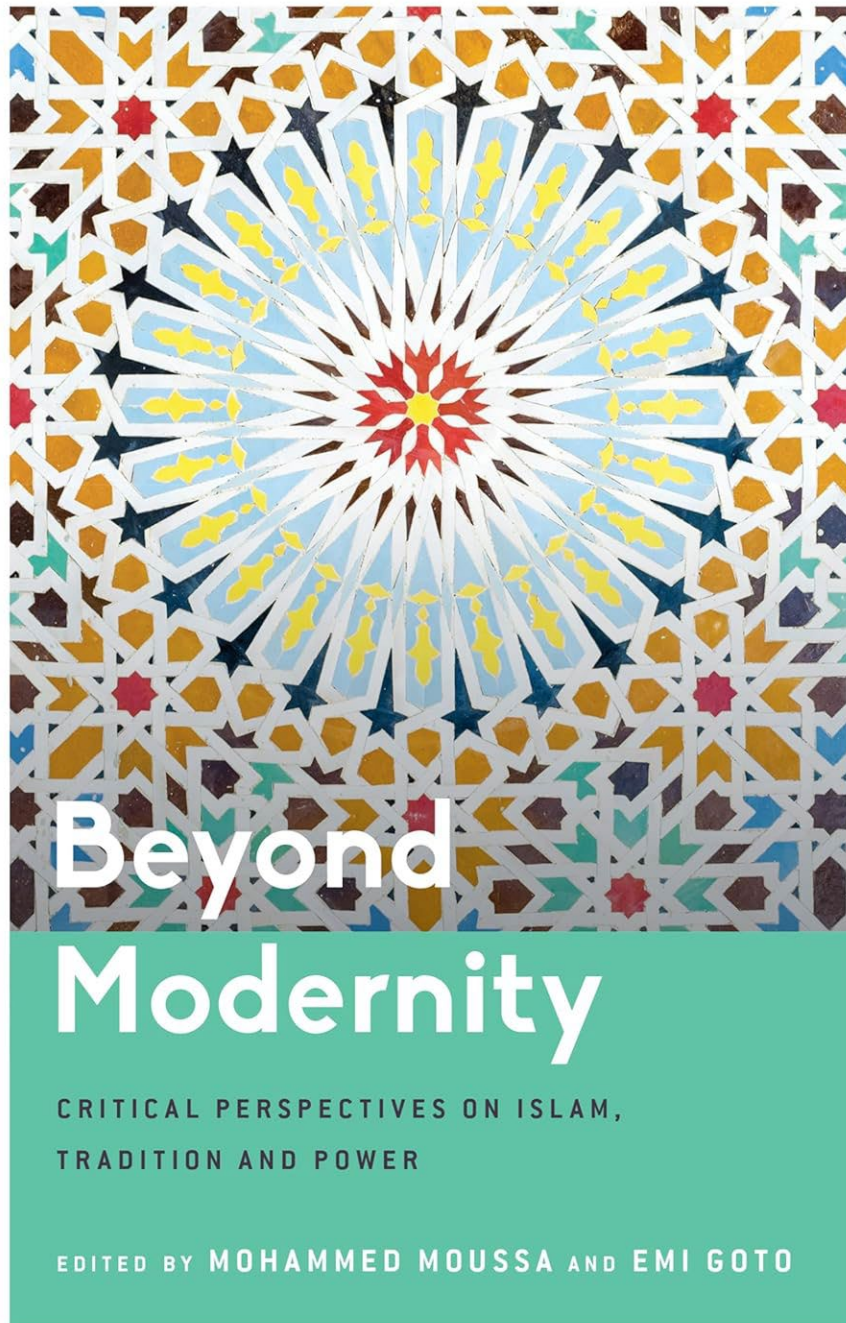


Preface

I spoke boldly. I said that as a challenger in this the Master's last game he was fighting in single combat, and he was also fighting a larger battle. He was the representative of a new day. He was being carried on by the currents of history. . . . It was not likely that problems of succession would arise immediately if Otaké were to win, but the retirement match meant the end of an age and the bridge to a new age. There would be new vitality in the world of Go. To forfeit the match would be to interrupt the flow of history. The responsibility was a heavy one.

—Yasunari Kawabata, *The Master of Go*

The present book grew out of a workshop held at the Institute for Advanced Studies on Asia, the University of Tokyo, in November 2015. Its theme was the overlap and interconnections between the two seemingly distinct categories of 'ulamā' and Islamists that then led to the organisers questioning the allegedly mutually exclusive nature of the binary of modernity and tradition. Another subsequent workshop in July 2017 at the Institute for Advanced Studies on Asia witnessed our first attempt at establishing a springboard

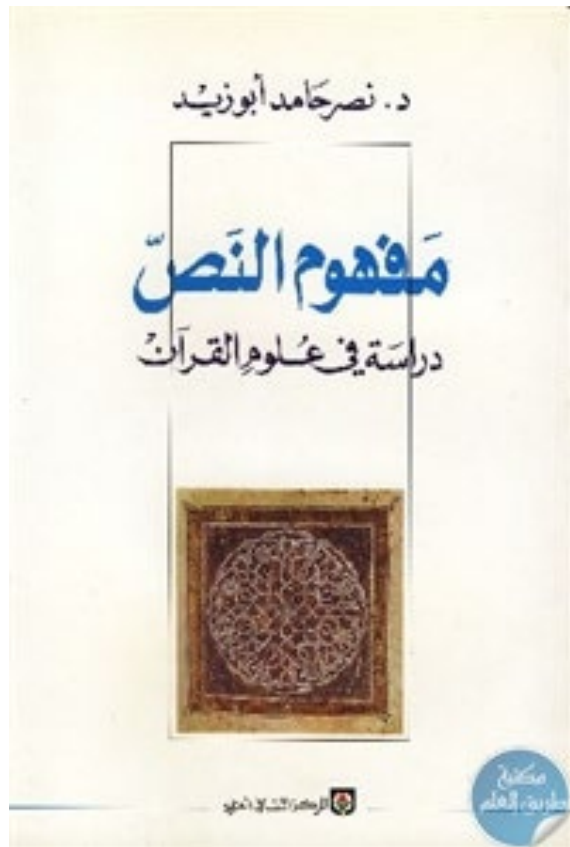


Preface

Introduction: Beyond Modernity? Interpreting Muslim Thought and Practice (Mohammed Moussa)

- 1: Problematizing the Compatibility of Islam and Democracy through a Hermeneutical Approach (Ahmet Kemal Bayram)
- 2: The Urgency of Changing the Arab World: The Case of Adonis, Mohammed Abed Al-Jabry, and Mohammed Arkoun (Atef Alshaer)
- 3: Reconstruction of the Maqāṣid al-Sharīʿa in Ibn ʿĀshūr's Legal Philosophy (Hitomi Ono)
- 4: The Ḥijāb between Competing Masculinities in Contemporary Turkey (Ravza Altuntaş-Çakır)
- 5: The Wahhabi Ascendancy and the Decline of the Ashrāf in Saudi Arabia (Kenichiro Takao)
- 6: Jawdat Said's Path Towards Nonviolence (Mohammed Moussa)
- 7: A Turn to Hermeneutics: Nasr Hamid Abu Zayd's Rethinking of Religion and Tradition in Japan (Emi Goto)
- 8: Religious Authority and the Making of al-Sistani's Charismatic Leadership in Post-2003 Iraq (Fouad J Kadhem)

ナスル・ハーミド・アブー＝ザイド (1943–2010)



『テキスト理解』



『宗教言説批判』

エジプト出身の思想家
クルアーン研究により
「異端宣告」を受けた

聖典の文言のもつ権威に対する批判的洞察と、聖典を現実世界の経験と結びつける必要性について論じた
テキストの啓示当時における「意味」と現代における「意義」を分ける

ナスル・ハーミド・アブー=ザイド (1943-2010)

下エジプトのタンタ市近郊の小村で質素な家に生まれる。

専門学校を卒業後、電気技師として働き始める。

カイロ大学でアラビア語学の学士号を取得

修士論文はムータズィラ派の理性主義に関するもの

- 1978-80年: 米国ペンシルベニア大学に留学
- 博士論文はイブン・アラビーのクルアーン解釈学について
- 1985-89年: 大阪外国語大学に客員教授として招聘
- 1989年: カイロ大学に復帰
- 1992年: 教授昇進審査。宗教学部教授で説教師の
アブドゥル=サブール・シャヒーンの否定的意見により却下

「知的テロリズム」、離婚をめぐる裁判、実質的な「異端宣告」

これらの[アジアの]文化に触れたことが、良くも悪くも今の私を作ったと認めざるを得ない。もしあの旅の経験がなかったら、私はどんな人間になっていただろうか。



ナスル・ハーミド・アブー=ザイド (1943-2010)

下エジプトのタンタ市近郊の小村で質素な家に生まれる。

専門学校を卒業後、電気技師として働き始める。

カイロ大学でアラビア語学の学士号を取得

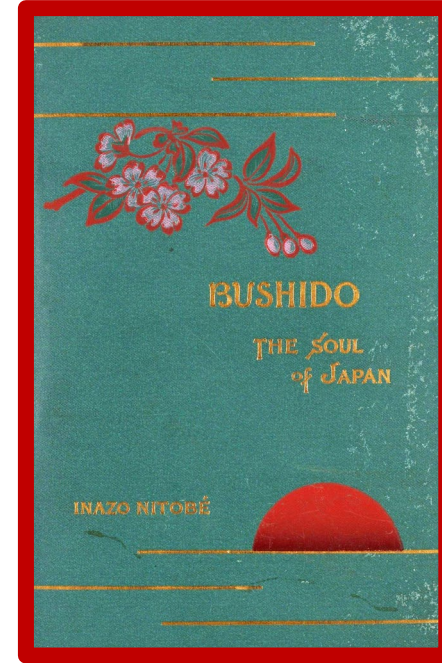
修士論文はムータズィラ派の理性主義に関するもの

- 1978-80年: 米国ペンシルベニア大学に留学
- 博士論文はイブン・アラビーのクルアーン解釈学について
- 1985-89年: 大阪外国語大学に客員教授として招聘
- 1989年: カイロ大学に復帰
- 1992年: 教授昇進審査。宗教学部教授で説教師の
アブドゥル=サブール・シャヒーンの否定的意見により却下



BUSHIDO (1899)

- 新渡戸稲造 (1862-1933) が英語で著した日本文化論。
- 著者は封建的な藩士の家に生まれた。
- 札幌農学校時代にキリスト教に改宗、後にクエーカーのアメリカ人女性と結婚した。



「学校で宗教教育がないのに、日本人はどうやって道徳を学ぶのか？」

答えは「武士道」だった。

BUSHIDO (1993, 解説と翻訳)

- 『武士道』のアラビア語訳で目指したもの
アラブの読者に自己を省みさせ、現代の状況について批判的に考えさせること。

- 序文全体に貫かれるテーマ

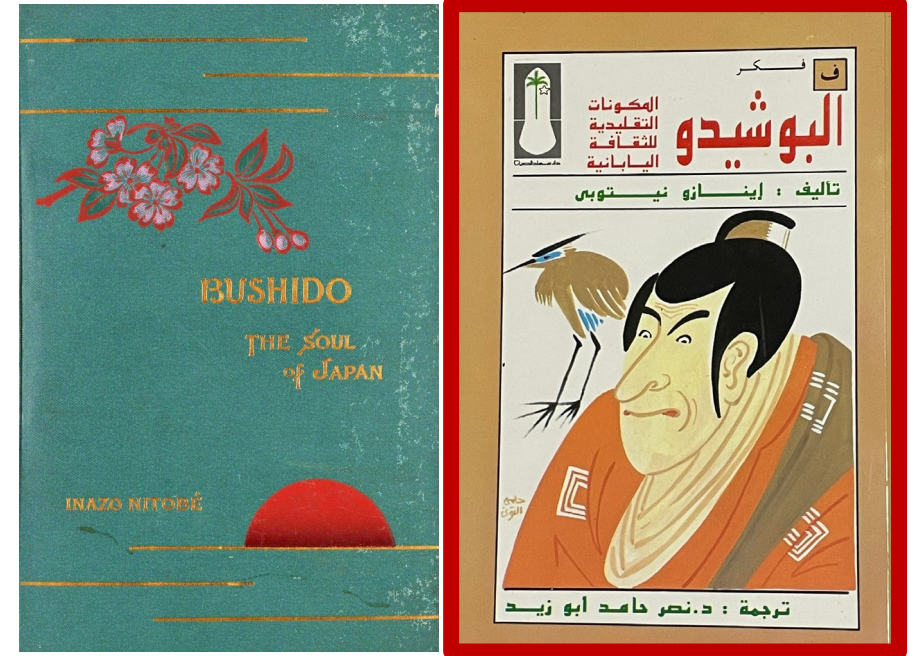
なぜ、そしてどのようにしてアラブ人とエジプト人の歴史・文化・文明は過去から断絶し、今もなお断絶したままなのか？

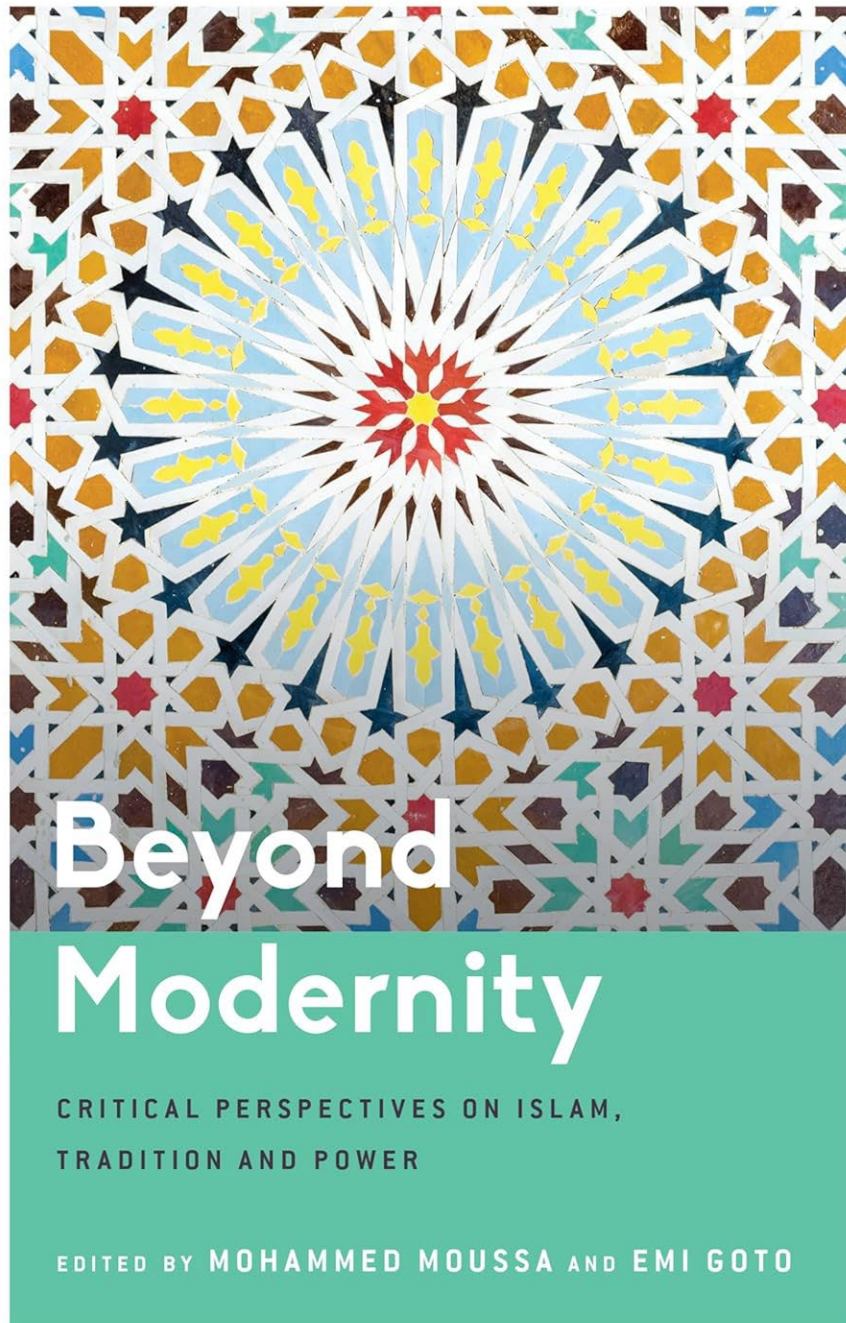
「イスラーム主義」の広がり、特定の「創られた過去」を現在に投影。

『武士道』において現在は過去が紡いだ**多くの糸**で織りなされたテキスタイルとして捉えられる。その考え方は現代の日本にも引き継がれている。

アラブの人々も過去を同様に捉えられないかという問い。「**宗教**」概念の再考

『テキスト理解』と『宗教言説批判』が生まれた背景の一つ





イスラーム研究を西洋の学問的枠組みやアラブ・イスラームの伝統に由来する枠組みのみから始めることが当然視されている状況において日本でイスラームを研究する意義とは何か。

本書は、近現代のムスリムたちの多様な思想と実践を新たな角度から捉えようとする試み。各章で取り上げられた事例は、「伝統」と「近代性」、「西洋」と「イスラーム」という二項対立的な認識がもつ問題を浮き彫りにし、複合的な伝統が存在する可能性を示している。